

令和4年度 保育園の自己評価について



《 西田原保育園 》

保育園の理念『みんなの笑顔があふれ みんなで認め合い 望ましい未来を創りだす力や心を育てます』をもとに、人とのかかわりを大切に、元気で心豊かな子ども達を育てるために、取り組んできました。今年度もコロナ禍の中にあり交流の持ち方・行事の進め方等、難しさも感じながらではありましたが、私たち職員はこの一年も子ども達にとっては大切な一年であると思い、できることを話し合い保育してきました。

それぞれの立場からこの一年を振り返り、自らを見直すことで課題も見え、更なる質の向上に繋げて行きたいと思っています。そして今後も、子ども達が笑顔で楽しく、自ら遊びを見つけ、十分遊び込める保育を実践していきたいと思っています。

また、保護者の皆様、地域の皆様との交流を深め、風通しのよい保育園づくりをめざしていきます。

～今年度は、“身体づくり”に取り組みました～

楽しい遊びを日々の保育に取り入れることで、身体を動かすことが楽しいと感じながら、自然と体力がついたり、身体のバランスが取れるようになってきました。

今後もいろんな遊びを通して、身体づくりを大切にしていこうと思います。

- * タオル体操
- * 柔軟体操
- * V字バランス
- * 雑巾かけ
- * リングくぐり
- * ラダー・ハードル・バランスボール・平均台などのサーキット遊び
- * 大縄とび
- * 散歩
- * マラソン（園庭）
- * ボール遊び



令和4年度の取り組み

～それぞれの自己評価から園評価を公表させていただきます～

① 【一言目標】

4月に各自「一言目標」をかかげ、1年間で達成できる自分自身の目標を持ちました。保育士として、心がけたい事や、日常生活の上で大切にしたい事などがありました。1年を振り返り達成できたかどうか確認をしました。殆どの職員が概ね達成することができ、また来年度への目標も持つことができました。

達成度	達成できた (10~9)	よくできた (8~6)	あまりできなかった (5~3)	達成できなかった (2~0)
%	71 %	29 %	0 %	0 %

②【階層別研修】

職員の経験年数を踏まえた研修を、昨年に引き続き全職員が行いました。

＊求められる保育士 ＊子ども理解と保育実践

＊保護者へのかかわり ＊園運営における組織づくり

それぞれの4つの視点について事例を元に研修を深め、自己を見直し評価してきました。

保育士の言葉がけや、環境づくりが子ども達の成長に、大きく関係していく事を学び、日ごろの保育を振り返るよい研修となりました。

③【児童安全管理研修】

子どもを取り巻く様々な事件が、全国で起こってしまい心を痛めました。

子どもを守るため、私たち保育士が責任をもって保育する。職員間の連携等も再確認し、意識を高めるため、全職員が児童安全管理研修を受け、人権擁護のためのセルフチェックを行い、自己を振り返りました。その中で一人ひとりの子どもの育ちや気持ちを認めた上で、保育士の言葉がけの大切さを改めて学び、今後の課題に上がりました。

例)「子ども一人ひとりの人格を尊重するかかわり」について

＊子どもが保育士に話しかけてきた時、「いま、忙しいからちょっと待って」と、子どもが話そうとしている時にすぐに対応できない時があり、保育士の仕事を優先してしまった。

「物事を強要するようなかかわり」について

＊集団行動をするための言葉がけをした際、なかなかお片付けができず、切り替えられない子に対し、「はやくしましよ」と、その子の気持ちを考えて、ゆっくり確認できなかった。

これからも、子ども達の育ちに寄り添い、保育園ならではの経験ができるよう、職員で課題を出し合い取り組んでいきます。

来年度は、第三者評価を受審します。保護者の皆様にご意見等を聞かせていただきますので、ご協力をお願いします。安心してお子さんを預けていただけるよう、更なる質の向上に繋がっていきます。

《 桔梗が丘保育園 》

保育園の理念『みんなで創ろう つながろう 人の輪 心の和 子どもの笑顔がみたいから』をもとに、日頃より、大切なお子様を保育するなかで、職員一人ひとり、また保育園全体の質の向上を図ることを大切にしています。

今年度も、長引くコロナ禍を経験するなかで、気づきや工夫こそが子どもたちにとって大切なことであると考え、取り組んできました。また、保育現場での大変痛ましい重大事故が報道される中、それぞれの立場から、自分たちの保育を見つめ直すきっかけとし、安全対策にも取り組んできました。この一年を振り返り、本年度の自己評価を実施致しました。今年度の結果を踏まえ、さらに保育園がお子様にとって『安心できる居場所』となれるような園づくりに努めていきたいと思っています。

また、保護者の皆様、地域の皆様との交流を深め、風通しのよい保育園づくりをめざしていきたいと思えます。

なお、当園では、より良い福祉サービスの実施を目指して、三重県が推奨する福祉サービス第三者評価を定期的に受審しており、来年度は受審を予定しています。第三者の評価、結果を受けて、園の運営を振り返ると共に、職員の資質向上につなげていきます。

～今年度は、“地域交流”を積極的に取り組みました～

異年齢交流、地域交流、世代間交流など、いろいろな人とつながる経験を積極的に取り入れ、愛される喜びや感謝の気持ち、思いやりの心を育むことを大切に、人の温かさをより近くに感じられるよう取り組みました。

- * 地域の高齢者サロンや地域の市場への訪問
- * 高齢者の方への季節の制作プレゼント
- * 「ほっとまち茶房ききょう」「桔梗が丘市民センターまつり」作品出展
- * 勤労感謝の日 お世話になっている地域の方へのお礼メッセージ
- * 小学校訪問、小学生との交流授業参加



令和4年度の取り組み

～職員の自己評価から園評価につなげ

次のように公表させていただきます～



① 【一言目標】

4月の新年度スタート時に職員一人ひとりが保育の場に携わるなかで、どんなことを大切に過ごしたいかを一言目標として掲げ、保護者の皆様にもお伝えさせていただきました。1年が経ち、自分の目標がどれくらい達成できたかを振り返り10段階で評価しました。そのなかでは、多くの職員が目標達成に向けて意識して過ごせたと感じ、来年度は更に自己を高めていきたいという意欲を持つことができました。

達成度(10段階)	達成できた (10～9)	よくできた (8～6)	あまりできなかった (5～3)	達成できなかった (2～0)
0%	19.2%	80.8%	0%	0%

② 【階層別研修】

昨年度に引き続き、職員の経験年数を踏まえ階層分けをして研修を実施しました。それぞれの階層で次の4つの視点を中心にしながら、保育施設での具体的な事例をあげて、言葉がけや関わり方などについて意見交換をしながら学びを深めました。

○求められる保育士 ○子ども理解と保育実践

○保護者へのかかわり ○園運営における組織づくり

階層により自らに求められることや、いろいろな考えがあるなかで意識統一をして保育に向かうことの大切さを感じ、今後につながる研修となりました。

③ 【児童安全管理研修・人権擁護のためのセルフチェック】

子どもにかかわる様々な事件や事故が報道され、保育施設で勤める者として大きな憤りを感じ心を痛めました。園では全職員が児童安全管理研修を受講し安全対策について再確認をしました。また、改めて職員間で「子どもを守る、ために自分たちが今できることを考え、まずは自らの保育や子どもとの関わりを見直してみよう」と全国保育士会が出している『人権擁護のためのセルフチェックリスト』を用いて自己を振り返りました。

この中では特に、社会や集団での生活につなげていくための関わりや言葉がけについて深く話し合いました。例えば、給食前の片付け時に遊び続けようとする子に対し、思いを大切に納得がいくまで遊ばせたい思いと、社会性という観点からは上手く切り替えができるようになってほしい思いの葛藤もあります。しかし年齢や発達に応じて子ども自身が納得して切り替えられるような関わりを工夫し、子ども自身が考えて行動する力を育てられるよう、肯定的な言葉がけを大切に、子どものやる気を育てていこうと話し合いました。

また、おかしいと思うことをおかしいと言えるような職員間の関係性も大切であることを感じ、職員間のコミュニケーションを深める研修も数多く取り入れました。



今年もコロナ禍で子どもを取り巻く環境にも様々な制約がありましたが、その中でこそ見えてきたものもたくさんあり、行事を含めた保育を見直す機会ともなりました。形を変えながらも育てたい、経験してほしいという思いが具体化できるよう考えてきました。

今後も子どもたちの健康・安全、そして笑顔を守るため保育園として、ご家庭との連携を大切にしながら保育をしていきます。